

将来なりたい大人

向洋中学校 二年 柴田 真毅



みなさんには、「こんな大人になりたい」という理想がありますか。

僕は、「どんなことがあっても最後まで諦めない心」をもった大人になりたいです。なぜなら、何があっても最後まで諦めずに頑張る人はカッコいいと思うからです。

そう思ったきっかけは、バスケットボール選手の河村勇輝選手を見たからです。河村選手は、NBAというアメリカ・カナダの男子バスケットボールのプロリーグでプレーしています。このNBAには、いろいろな国の選手、四百五十名が登録され、プレーしています。その中で現在プレーしている日本人選手は二人、これまでプレーしたことがある日本人選手全員を含めても、五人しかいません。そして、河村選手は、現在NBAでプ

レーしている選手の中で最も小柄な選手です。河村選手は、「小さい選手でもNBAでプレーできると示したい」という強い気持ちで、努力を重ねてきたそうです。河村選手のプレーは、背の高い選手の懷に潜り込む、スピードを生かしたドリブルや、大事な場面で点数につながる正確なアシスト、ミスを一回で修正する頭の回転の速さなどが特徴です。これらのプレーができるようになるまでには、どんなことあっても最後まで諦めない心で、普通ではとても考えられないような努力を重ねてきたのだと思います。

僕はどうしたら河村選手のように「どんなことがあっても最後まで諦めない心」をもてるか考えました。そして、僕は「メンタルを鍛えることが一番大切だ」という結論にたどり着きました。メンタルを鍛える方法として考えたのは、

- 一、目標を設定する
- 二、その目標に向かって努力し、目標を達成する

三、目標を達成したことが自信につながる

四、メンタルが少しずつ強くなる

という流れです。これを繰り返していくうちにメンタルが鍛えられ、「どんなことがあっても最後まで諦めない心」をもった大人になれるのではないかと考えています。

僕も、バスケットボール部に所属しています。僕は、ドリブルが苦手です。そこで、ドリブルが上手くなることを目標にしました。この目標を達成するために僕は、毎日家でドリブルの練習をしようと思います。そして、試合などで自分でドリブルしてボールを運び、攻められるようになったら目標達成です。

これからは、自分の中で目標を設定し、毎日努力し、自信をつけていきたいと思っています。そして、「どんなことがあっても最後まで諦めない心」をもった大人になれるように頑張りたいと思います。



未来へつなぐために できること



最近の夏は、家の中でエアコンをつけて快適に過ごしていたせいか、一歩外に出ただけで、その暑さに驚くことがあります。私たちの住む北九州市では、暑さ指数が33以上と予測される場合は、体育や部活動、屋外での活動が原則禁止と決まっております。実際に部活動の練習が中止になる日もありました。そして現在の日本では、夏でも涼しい気候帯だった北海道でも最高気温が38度以上の危険な暑さになるなど、全国の多くの地点で観測史上最高気温が出たりしています。日本の平均気温は、過去100年で約1.4度も上昇しています。気温上昇のように自然に影響が現れている原因としては、地球温暖化が挙げられます。

地球温暖化の主な原因とされているのは、人間の産業活動な

若松中学校 三年 迫田 日菜子

どによって排出される温室効果ガスの増加です。18世紀ごろの産業革命以降、人間は石油や石炭などの化石燃料を燃やしてエネルギーを得て、経済を発展させてきました。その結果、大気中に大量の二酸化炭素が排出されました。これらのガスは、地球の外に出ていくはずの熱を大気に蓄積し再び地球の表面に戻すという性質があります。そのため、地球の平均気温は約15度に保たれ、人間が生活しやすい環境が維持されてきました。しかし、これ以上温暖化が進行すると、宇宙空間へ放出されるはずの熱が地球にとどまりやすくなり、そのバランスが崩れてしまいます。

このように温室効果ガスが増え続けていることで、地球は「温室化」していきます。そして地球温暖化には、異常気象や海面上昇、食料危機などの人間の生活や生命に関わる問題が発生する可能性があります。

地球温暖化の影響は世界各地で現れています。例えば、ヨー

ロップパでは記録的な熱波が発生し、熱中症や脱水症状などの健康被害や森林火災の原因となっています。また、アジアやアフリカの一部地域では干ばつが深刻化し、農業生産に大きなダメージを与えています。さらに、南極や北極の氷が急速に溶けており、海面上昇が起こり、島国や沿岸地域では水没のリスクが高まっています。このように、地球温暖化は一部の地域に限られた問題ではなく、世界全体に影響を及ぼす深刻な環境問題となっています。

このような地球温暖化は、私たち一人一人の意識や行動にかかっています。しかし、私自身、まだ二酸化炭素の排出を減らすためにできていないことがあります。例えば、部屋を移動するときに電気をつけっぱなしにしてしまうことです。「すぐ戻るからいいや」と思って消さないことがあり、結局、電気をつけていたことを忘れていたことがありました。また、エアコンの使用も課題です。夏は冷やしすぎ、冬は暖めすぎてしまうことがよくあり、必要以上に長時間つけてしまうこともあります。こうしたことが結果的に地球温暖化の進行に関係してくるのだと思います。だから、これからは、部屋を離れるときは必ず電気を消すこと、エアコンの設定温度を見直すなど、身近なこと

でできることから改善していきたいです。そして、この先私たちが安心して暮らしていくためには、今生きる私たちが責任をもって行動し、次の世代へより良い地球を残していくことが大切だと私は考えます。



出会いに感謝して

洞北中学校 三年 大田 悠翔



「おはようございます。」私の一日はこの言葉から始まります。家族に対しても、一緒に登校する友達に対しても、朝の時間や会話をする前には必ずこの言葉からです。特に学校では、

生徒会執行部として、毎月、学校の正門に立ち、登校してきた下級生や同級生、先生方に挨拶をする「朝の挨拶運動」を行っています。

私がこの運動を始めた当初は、朝の眠い時間に挨拶をするのとに正直、苦手意識がありました。しかし、元氣よく挨拶を返してくれる人や、私たちの挨拶で笑顔になってくれる人に出会ううちに、シンプルな「おはようございます。」という言葉が、いつしか私の原動力に変わっていきました。今では、この活動が私にとってはなくてはならないものになっています。また、

挨拶運動を始めた当初、小さな声や控えめなお辞儀だけだった人が、日を追うごとに、はつきりとした声と素敵な笑顔で挨拶を返してくれるようになります。その瞬間、「この挨拶運動は、きつと私と同じくらい、挨拶を返してくれた人にとっても一日の始まりを心地よいものにしていくに違いない。」と確かな喜びを感じます。一人一人に挨拶をする時間はごくわずかで、たった一言を交わすだけです。しかし、この短い挨拶にも人の心を動かす不思議な力があると、私は感じます。

挨拶の大切さを感じるのは、学校生活だけではありません。例えば、地域のボランティアに参加した時のことです。最初は見慣れない高校生や大人ばかりで、少し緊張していましたが、勇気を出して「こんにちは。」と元氣に挨拶をすると、他の方も「こんにちは、頑張ろうね。」と笑顔で返してくれました。その一言で私は一気に心が軽くなり、知らなかった人との距離も縮まったように感じました。一緒に作業する中で、自然に会

話も弾み、最後には「ありがとう、楽しかったよ。」と感謝の言葉までもらいました。また、クラブチームの試合で長崎へ遠征に行った時も、挨拶の力を実感しました。初めて訪れる場所で慣れない環境でしたが、「今日はよろしくお願いします。分らないことがあれば、ぜひ聞いてください。」と相手チームの方が爽やかに声をかけてくださり、その一言をきっかけに、試合中や試合後も「今のプレーすごかったね。」とお互いを尊敬し、現在でも交流が続くようになりました。このように、学校での挨拶運動から地域の活動、そしてクラブチームでの交流まで、様々な場面で挨拶がもつ力を実感しています。

この挨拶がもつ力は、私だけでなく、多くの人が普段の生活の中で感じることが出来ます。例えば、スーパーで買い物をした時、レジの人が「ありがとうございます。」と声をかけてくれた時、何も言わないよりは「また来ます。」や「ありがとう。」のように、丁寧でフレンドリーな挨拶はお互いの気持ちだけでなく、その場の雰囲気までも明るくしてくれます。

私が様々な経験を通じて気づくことができた「挨拶の不思議な力」をこれからも大切に、全ての出会いに感謝していきたいです。

